

【到達目標】 さまざまな文化芸術が息づき、誰もが楽しめるまち

実施項目	主な取組	第3次計画策定時の現状と課題	成果指標	基準値 平成25 (2013) 年度末	平成30 (2018) 年度末	目標値	到達 状況
取組方針Ⅰ ふれる、たのしむ ～暮らしの中に文化芸術を感じることでできる環境をつくる～							
1. 文化芸術の活動やイベントの充実		●市民参加・企画型イベントの継続的発展が望まれています。	日ごろから文化芸術に触れる機会があると思う市民の割合	38.40%	47.50%	40.00%	○
①市民の文化芸術活動支援	・市民文化祭、地域学習館まつり、アールブリュット立川展など、市民の自主的な活動を支援しました。		財団が展開する文化芸術事業への来場者数	47,500人	73,640人	55,000人	○
②文化芸術イベントの開催	・立川市民オペラや立川いったい音楽まつりなど市民共創型イベントを実施し、市民の自主的な文化芸術活動が推進され、シティプロモーションにも寄与しました。 ・財団が、たましん RISURU ホールで、クラシックやポピュラー音楽、落語や演劇などの公演を実施するとともに、学習等供用施設や福祉施設など、市内各所で落語や音楽などの公演を行い、市民が身近で文化芸術に触れる機会の創出を図りました。 ・市と財団、NPO法人アートネットワーク・ジャパン（たちかわ創造舎）が実行委員会を組む、地域の劇場文化の活性化と立川からの発信を目指して、平成28年度に「立川シアタープロジェクト」を立ち上げ、RISURUホールで毎年クリスマスに子供と大人が一緒に楽しむ舞台を上演し、市民に本格的で良質な演劇に触れる機会を創出しました。						
2. 文化芸術の活動や発表の場の提供		●市民が質の高い文化芸術に触れる機会を継続して創出していく必要があります。	たましんRISURUホール来場者数	388,885人	457,953人	420,000人	○
【重点取組項目】 ①市内公共施設や公共スペースの活用	・女性総合センター・アイムホールを活用して、財団が、落語やクラシックなどの文化事業を行いました。 ・旧多摩川小学校を活用して、たちかわ創造舎が、「インキュベーション・センター事業」「フィルムコミッション事業」「サイクル・ステーション事業」とともに、「コミュニティ・デザイン事業」として演劇など多様な文化創造活動を展開しました。 ・子ども未来センターでは、指定管理者と石田倉庫のアーティストが連携して、「子ども未来センター美術部 美術部長はアーティスト」を年3回実施しました。また、「ドラムサークル」や「舞台芸術ワークショップ」、「ヴァイオリン・グループレッスン講座」など、指定管理者が、文化芸術活動支援事業を行いました。						
②民間施設の文化芸術活動への活用推進	・緑町のマンション「サンクタス立川」の西側壁スペースを、管理組合の協力を得て、ギャラリーとして無料貸し出ししました。 ・立川北口GREEN SPRINGS開発の際に文化の要素を取り入れるよう要請し、公募による世界の若手アーティストによる彫刻が設置されることになり、ファール立川アートとの連続性により、「まち全体が美術館」構想が推進されました。 ・民間の新設・既設施設の文化芸術活動への活用やギャラリーなどの文化芸術スペース整備、アート作品の設置等を働きかけました。						
	・民間の新設・既設施設に向けて、文化芸術活動への活用やギャラリー等の整備、アート作品の設置や展示等を働きかけます。	市民文化祭、地域学習館まつり来場者数	30,807人	29,031人	35,000人	×	

実施項目	主な取組	第3次計画策定時の現状と課題	成果指標	基準値 平成25 (2013) 年度末	平成30 (2018) 年度末	目標値	到達 状況
取組方針Ⅱ はぐくむ、ささえる ～子どもや若者の感性を育む、アーティストを支援する～							
1. 子どもたちや若者が文化に触れる機会の創出		●子どもたちの豊かな感性を育むため、文化芸術に触れたり体験したりする機会をこれまで以上に充実させる必要があります。 ●若い世代の文化芸術への関心を高めるため、学生や若者たちに文化芸術活動への積極的に関わるよう働きかけをすることが必要です。 ●活動の場や表現の機会を増やすなど、アーティスト等への支援を充実させることが必要です。 ●アーティスト等の活動を支援したり、市民と文化芸術活動をつなげたりするボランティアの育成が求められています。	財団が展開する子ども対象事業参加者数	2,391人	6,346人	3,000人	○
【重点取組項目】 ①子ども対象文化芸術事業の積極的な展開 ・ファーレ立川アート鑑賞教室や小中学校への訪問事業をはじめとする芸術鑑賞事業、キッズワークショップ等の体験型事業等、子どもの感性を育む事業を積極的に実施します。	・「ファーレ立川アート鑑賞教室」を財団が実施し、市民ボランティア団体のファーレ倶楽部が市内全小学校の5年生にアート作品を案内しました。 ・「小学校訪問事業」として音楽、落語、アート、ダンスのプログラムを提供するとともに、「小学生・中学生吹奏楽クリニック」や「小学校演劇体験事業」を財団が実施しました。 ・「キッズ・ワークショップ」として、音楽や工作など子ども向けのワークショップを財団が実施しました。 ・「こどものためのお箏教室」を平成29年1月から財団と(公社)日本三曲協会が主催し、稽古や発表会を行ってきました。						
②学生・若者等の文化芸術活動への参加促進 ・市・財団が展開する事業を通して、市と連携協定を締結している国立音楽大学の学生や周辺の美術大学の学生、その他市内外の学生・若者の文化芸術活動への参加を促進します。	・市と連携・協力に関する協定を締結している国立音楽大学と連携し、市内公共施設でのコンサートや小中学校での吹奏楽クリニック、国立音大コンサートなど20を超える連携事業を実施しました。また、学生やOBによる演奏会について、女性総合センター・アイムホールを無償で貸し出す制度により学生の文化芸術活動を支援しました。 ・文化芸術のまちづくり協議会の自主事業「ワークショップ＆ワークショップ edu」では、大学生などが子どもたちにワークショップのプログラムを提供しました。		文化芸術活動ボランティア登録者数	101人	139人	120人	○
2. 文化芸術の担い手の支援			ロビーコンサート・水曜コンサートの学生団体出演数(累積)	27回	76回	90回	×
①文化芸術に関わるボランティアの育成 ・講座等を開催してボランティアを育成するとともに、さまざまな文化芸術活動やイベント等に支え手として関わることのできる場・機会を積極的に提供します。	・文化芸術のまちづくり協議会が、アートを応援し、支援する市民を育てる「アート・サポーター養成講座」として「レセプションист育成講座」や「市民ライター育成講座」を実施し、文化芸術にかかわる市民ボランティアの育成に取り組みました。						
②アーティスト活動の支援 ・子ども未来センターやたちかわ創造舎等において、アーティスト等の活動の場を用意するとともに、市及び財団の事業、文化芸術のまちづくり事業補助金等を活用して、アーティスト等に発表の機会を提供します。	・たちかわ創造舎のシェア・オフィスには、3団体・1個人が入居し、校舎を利用したの体験型演劇や市内各所での野外劇、中高生対象の演劇ワークショップ、チョークアートワークショップなど、地域の中での活動を進めました。 ・多摩地域の25施設が加盟する東京多摩公立文化施設協議会主催のコンクール要素を取り入れた「多摩フレッシュ音楽コンサート」(声楽・ピアノ部門)を実施し、多摩にゆかりのある若手音楽家の発掘、支援する機会を提供しました。また、入賞者には「フレッシュ名曲コンサート」を、市、財団が主催し、さらなる飛躍の機会を提供しました。 ・文化芸術のまちづくり協議会が文化芸術に取り組む市民団体に補助金・奨励金を支給し、活動に対する支援をしました。 ・立川市内・多摩地域を活動拠点としているアーティストの作品を紹介することを目的に、「アートマーケット」として作品の展示・販売を財団がたましんRISURUホール・ロビーで開催しました。 ・財団が実施する、たましんRISURUホールの「水曜コンサート」や「市役所ロビーコンサート」に、国立音楽大学の学生や若手アーティストに出演していただき、発表の機会や場を提供し、アーティスト支援に取り組みました。						

実施項目	主な取組	第3次計画策定時の現状と課題	成果指標	基準値 平成25 (2013) 年度末	平成30 (2018) 年度末	目標値	到達 状況
取組方針Ⅲ つたえる、つなげる ～文化芸術の息吹を伝え、その波と輪を広げていく～							
1. 文化芸術を伝える取組			まちづくり協議会ホームページアクセス数	3,411	7,071	8,000	×
【重点取組項目】 ①文化芸術を生かした シティプロモーションの展開	・ファールレ立川のビル所有者や市民団体のファールレ倶楽部、市などで構成するファールレ立川アート管理委員会が、ファールレ立川を美術館に見立てたイベント「ファールレ立川 アートミュージアム・デー」を平成28年から10月と3月に開催したほか、作品の保全、写真コンテストや街区の勤務者向けアートツアー、留学生を対象にしたモニターツアーなどを実施しました。また、作品案内アプリ「ファールレ立川アートナビ」や多言語のパンフレット、関連グッズなどを活用し、周知に取り組みしました。						
・立川の文化芸術に関する情報を積極的に発信することで、まちの魅力を高めるとともに、文化芸術活動の活性化を図ります。世界的に評価されているファールレ立川アート、まんが・アニメをはじめとするサブカルチャー等、立川ならではの文化芸術を積極的に活用します。	・平成30年度の立川まんがぱーくの利用者数は、103,598人でした。アシスタント背景美塾の協力で、まんがの描き方などまんが関連のワークショップを開催しました。						
	・平成29・30年度の2年間の事業として、武蔵野美術大学と連携し、アール・ブリュット作品を取り入れて、立川駅西地下道壁面のアート化に取り組み、暗い地下道が明るく生まれ変わりました。ライブペイントやワークショップ、関連イベントなどに、年代や障害の有無を超えて様々な方が参加することにより、障害のある人もない人も共に暮らしやすいまちづくりにも寄与しました。						
②文化財・伝統文化の継承、 市史の編さん	・歴史民俗資料館・古民家園で、体験学習会や企画展、地域の高等教育機関や市民団体との連携事業を開催しました。						
・文化財の登録・指定、保存のための助成を行うとともに、地域の歴史や伝統文化に触れる機会の充実を図ります。	・実行委員会に助成するとともに、協働事務局を財団が担い「よいと祭り」を開催しました。平成30年は30周年を記念し、30年ぶりの「砂川十番組大のぼり」の建立や、令和元年は令和を祝す特別企画を実施しました。						
・よいと祭りをはじめとする文化継承に関わるイベントを継続的に支援していきます。	・お囃子や獅子舞などの市民団体に対し、東京都の伝統文化親子教室事業補助金の申請を支援しました。						
・立川の歴史を次代に継承するために、新しい「立川市史」の編さんに着手します。	・市史編さん事業として、先史、古代・中世、近世、近代、現代、民俗・地誌の6部会が、巡見や資料の調査・収集、古老や関係者からの聞き取りにあたりとともに、資料編「地図・絵図」や調査報告書3冊などを刊行し、販売しました。市民団体と古文書輪読会を持ち、資料の解説を行うなど編さん作業への市民参加にも取り組みました。事業の周知のために、年2回広報紙「たちかわ物語」を発行し、年1回関連講演会を実施しました。						
2. 文化芸術のネットワークを広げる取組			ファールレ立川アートツアー参加者数	1,811人	2,311人	2,000人	○
①多様な主体との 連携や交流の促進	・アーティスト、学識経験者、企業及び行政等で組織する文化芸術のまちづくり協議会により、文化芸術に関する多様な主体の連携・交流の促進を図り、協議会の自主事業「ワークショップ＆ワークショップedu」では、プログラムを提供した周辺大学などを対象に情報交換の場を設け、交流を深めました。						
・まちづくり協議会の自主イベント等の活動を通して、多様な主体が連携・交流を図れる場づくりに取り組みます。	・たちかわ創造舎では、多摩エリアを中心に文化を担う個人や団体、地域の方々と事業の実施等を通じた連携・交流が始まりました。						
②文化芸術に関わる情報の プラットフォームづくり	・平成26年度に立ち上げた文化芸術のまちづくり協議会ホームページ「TACHIKAWA BILLBOARD」により、地元のアーティストやイベント、地元企業の歴史などの紹介を行い、文化芸術のプラットホームづくりに取り組みました。また、平成30年度から、アートサポーター養成講座に参加した市民レポーターが情報発信にも取り組みました。		まちづくり協議会加入団体数	39団体	39団体	45団体	×